しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渇くことがありません。
わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

高松泉キリスト教会　ニュースレター
第 173 号（2024 年 7，8 月合併号）

いずみ

香川県高松市伏石町 2018-5
Tel & Fax 087-867-2302
http://izumichurch.holy.jp/
発行人　宮地　宏一

梅雨が明ける前から、真夏のような暑い日々が続いています。暑いと食べたくなるのが冷たいアイスやジュースですが、今年の夏は少し我慢するつもりです。それは先日受けた健康診断でコレステロール値と血圧が高かったからです。自覚症状が全くなかったので、ビックリしました。それからしばらく、甘い物・塩辛い物をひかえ、良く噛んで食べるようにしたのです。家族は、これが一年間ずっと続くはずがないと思っていますが、どうなることか!? それにしても私の周りには、誘惑がたくさんあります笑

今月も皆様とご家庭の上に、神さまからの恵みが豊かに注がれますように。　(2024.07.01)

すがりつく

時々、子どもたちがお互いに「ビビり～！ビビり～！」と牽制して合っています。「ビビり」とは“恐がり”とか“意気地なし”という意味です。実は本人たちが一番の「ビビり」。でも、それを認めず、自分を大きく見せようとします。そんなことをしても、何もプラスにならないのに。この性格は恐らく私に似たのでしょう。私も気が弱くて、恐がりなのに、強がってしまうことがよくあるからです。

本来の私たちは弱く、もろく、傷つきやすい。たとえ強く見える人でも、何かしらの弱さを抱えています。けれど多くの人は自分の弱さを隠そうとするのです。大丈夫じゃないのに、「全然、大丈夫！」と強がっています。20 年以上前のことですが、クリスチャンの友人が「『神さまを信じるなんて、弱いやつのすることだ』と言われてショックだった」と話してくれたのです。恐らく彼女は相手から見下されたように思ったのでしょう。しかし「神さまを信じる ＝ 弱い」というのは、あながち間違っていません。自分の弱さを認めないと神さまを求め、神さまにすがることができないからです。

一方で、とても逆説的なのですが、自分の弱さを認めるには、自分の弱さに向き合う強さが必要なのです。私たちは自分の弱さに対峙することを恐れます。それは自分が強く、立派な人間だという幻想が打ち砕かれてしまうからです。また弱い自分を受け入れてくれる人なんかいるわけないと思い込んでいるのです。だからこそ、自分の弱さを一生懸命隠そうとします。

聖書の中に出てくるパウロという人は、とても優秀で、真面目で、宗教心に篤く、みんなから尊敬されていたのです。自分が弱いなどと思ったことはなく、恐れを知らない人でした。そんな彼が復活されたイエス様に出会ったとき、打ち砕かれるのです。自分が無力であることを知ります。

それだけではなく、パウロは肉体に一つのとげが与えられるのです。それは彼にとって耐えがたいものでした。だから神さまに痛みを取り除いて欲しいと祈ります。その祈りに神さまは「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と答えられるのです。

これに対しパウロは「ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。･･･私が弱いときにこそ、私は強いからです」と応答します。このように“自分の弱さを誇る”なんて、普通だったらあり得ません。この世において私たちは自分の強さを誇り、自分の知恵を誇り、自分の権力を誇ります。それらによって、みんなから賞賛されることを私たちは喜びとしているからです。ですから年とともに強さが奪われ、認知力が低下し、権力が落ちていくと、どんどん悲しくなるのです。

私はこれまで自分の記憶力を唯一の誇りとしてきました。ところが最近、妻から「こんなことあったよね」と言われ、「え！覚えていない･･･」ということがあったのです。妻の表情から「あなた、大丈夫？」と思われているのが痛いほど良く分かり、唯一の誇りが一瞬にして砕かれました。この時、最終的に私たちに残されるのは、弱さなのかもしれない。そうだとすると“喜んで弱さを誇る”って素敵なことだと悟ったのです。すなわち、私は弱い。それで良いのだと。

けれど、これは自暴自棄になったり、自己卑下することとは違います。神さまは私たちが弱い存在であることをすでに知っておられます。その上で私たちを愛し、私たちをご自分の力と恵みでおおいたいと願っておられます。そのために大切なのは、自分を誇らず、握りしめているものを手放すこと。そして神さまに自分の弱さをさらけ出し、神さまにすがりつくことなのです。

また私たちが自分の弱さを誇り、神さまの力が私たちをおおうことが、私たちの目指す最終的なゴールではありません。

私たちの周りには、弱さを打ち明けられず、苦しんでいる人たちが多くいます。私たちは彼らに何もしてあげられず「おろおろ」するばかり。この「おろおろ」について、小山晃佑氏が次のように書いておられました。

一人の苦しむ人の前で、簡単にあきらめたり、見捨てたりするのではなく、真の神ならどうなさるであろうか、とおろおろして迷い、考え、畏れをもって祈ることです。･･･

おろおろってなんですか？と問われたら、子どもが急に大けがをしたときの母親の困惑に似たものです、と答えましょう。とっさにきれいさっぱり片付けるというわけにはいかない。困惑し、うろたえ、どうしたら子どもにとって最善かを考え、神にすがる態度です。これが愛というものではないでしょうか。

【小山晃佑著「神学と暴力」教文館より】

小山氏は「おろおろ」するのは、悪いことではないと語ります。私たちが一人の苦しむ人を前にしてできることは、ともに困惑し、うろたえ、考え、そして弱さのうちに働かれる神さまにすがること。このように「おろおろ」することが人を助け、人を愛し、力づける大きな一歩になるとは、なんとも不思議ですね。

ぜひご一緒に自分の弱さを認め、神さまにすがり、真実の愛が広がることを祈り求めていくことができたら幸いです。

主(神さま)にすがる我に　悩みはなし

［新聖歌 325 番「歌いつつ歩まん」より］

○ **礼　　拝**　毎週日曜日 10：30～12：00
○ **イズミン・キッズ**　毎週日曜日　9：30～10：20
○ **おやこ de えほん**　毎週水曜日 10：30～12：00
○ **Friendly English**　毎週木曜日　9：30～11：50（大人向け）

＊どなたでも歓迎いたします！「Friendly English」以外は事前申込みなしで参加いただけます。
上記の他に様々な相談や聖書の学びをすることができます。お気軽にお問い合わせください。